

『純度の高い専門性と社会的包容力』 ～ 丁寧な観察力の厳粛な場 ～

2024年9月27日 筆者は、病理組織診断業務に赴いた。顕微鏡観察は、『顕微鏡を見て 病気を診断する 丁寧な観察力の厳粛な場』である。『がん哲学 = 癌細胞の病理と人間社会の病理 = 生物学と人間社会』の原点でもある(画像)。

筆者は、クボタショックの2005年、順天堂大学で『アスベスト・中皮腫 外来』を開設する機会が与えられた。そして、2008年、順天堂大学で『がん哲学外来』が開設された。『純度の高い専門性と社会的包容力』を目指すものである。

9月28日は、早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座【がんと生きる哲学 ～ 医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える ～】である。

【目標： がんとともに暮らすことを知り、がん患者と対話し、がん患者に 寄りそう方法を 受講者自らがみつけ、笑顔になることをめざします。

講義概要：『がん哲学』とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。日本人の半分ががんになる時代、好むと好まざるとにかかわらず、多くの人のがんと一緒に生きる方法を見つけなければなりません。授業では教科書の読みあわせと解説をしつつ、受講者とのディスカッションを中心に講義をすすめます。がんとともに生きている患者さん、がん患者の家族や身近に患者がいる人、医療従事者等のがん患者に寄りそいたいと思う方 すべてが対象です。

テキスト：『新渡戸稲造 壁を破る言葉（三笠書房）樋野興夫著』（画像）と紹介されている。ただただ感服である。

午後は、『お茶の水 がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC(お茶の水クリスチャン・センター)』に赴く(画像)。『お茶の水 がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC』は、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時OCC副理事長であった 今は亡き榊原寛(1941-2020)先生が始められた。『継続の大切さ』を実感する日々である。

がん哲学外来とは・・・



吉田富三



新渡戸稻造



内村鑑三



南原繁



矢内原忠雄



樋野興夫

吉田富三のがん学と、南原繁の政治哲学

2008年 がん哲学外来 開設

<がん哲学外来>

お茶の水メディカル・カフェ in OCC

～2024年開催予定日～

第27回	1月20日(土)
第28回	2月10日(土)
第29回	3月23日(土)
第30回	4月13日(土)
第31回	5月18日(土)
第32回	6月15日(土)
第33回	7月20日(土)
第34回	8月17日(土)
第35回	9月28日(土)
第36回	10月19日(土)
第37回	11月9日(土)
第38回	12月14日(土)

いずれも13時から開始です。

会場: お茶の水クリスチャン・センター



主催: お茶の水メディカル・カフェ 共催: お茶の水クリスチャン・センター
後援: 一般社団法人がん哲学外来 がん哲学外来市民会



順天堂大学名誉教授
一般社団法人がん哲学外来名誉理事長
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
樋野 興夫 先生

樋野興夫先生との面談について
お茶の水メディカル・カフェ in OCCでは
毎週樋野先生が出席されますので、面談が可
能です。ご参加申し込みの際に、面談希望を
お伝えください。

*各回とも開催日の3週間前からお申し込みを受け付けております

逆境に
立ち向かう者へ
40のメッセージ

壁も新渡戸稲造
破る言葉

樋野興夫
Oshio Hiroe

「天をうらむな」
「悲哀はあなたを強くする」
「それでも笑うことだ」

没後90年——いまこそ知りたい「希望の言葉」

「がん哲学」提唱者の医師であり、
新渡戸稲造研究の第一人者でもある著者が厳選

三集書房